

〈授業報告〉

コロナ禍における学外スポーツ実習の実施に関する報告

白井祐介*・木村華織*

1. はじめに

我が国における最初の新型コロナウイルス感染者が確認された2020年1月から、緊急事態宣言の発出や東京オリンピックの延期などにより、私たちは日常生活が大きく制限された日々を経験した。日常生活の制約という点では大学教育も例外ではなく、本学では2020年の春学期以降で学内警戒レベルが引き上げられ、多くの授業がオンライン形式へと移行した。このようなオンライン化の流れは、実技形式の授業においても同様であり、多くの大学において体育授業がオンライン型またはオンラインと対面を組み合わせたハイブリット型 [1] で実施された。本授業報告では、実技形式の授業の中でも、学外で実施されるスポーツ実習（マリンスポーツ）について、授業実施のために講じた授業内容の変更点や感染症対策について報告し、そこからコロナ禍において実習授業を実施するうえでの課題について検討する。

2. 2021年度の授業計画の見直しについて

コロナ以前において、本授業は7月下旬から8月初旬にかけて、ウォータースポーツに関する見識を深めることを目的とし、学外3泊4日の日程で琵琶湖の湖畔にある施設で実施してきた [2]。2020年度の授業については、2019年8月に施設の予約を完了し、2020年4月より履修者の募集を行っていた。しかし、2020年4月7日に首都圏、大阪、兵庫および福岡に発出された緊急事態宣言 [3] が、4月16日には全国に拡大し [4]、学外で宿泊を伴う授業の実施が現実的ではないという判断に至り、授業の開講を見合わせ、実習先であるBSCウォータースポーツセンターへキャンセルを申し入れた。こうした経緯を踏まえ、2021年度の授業内容を検討する際には、授業担当者、教務課担当者および受け入れ先施設との情報共有を早期から行ない、緊急事態宣言などの公的な行動制限が講じられるよりも前に、ある程度の時間的な余裕を持たせて授業開講の可否を判断することを確認して臨んだ。2021年度の具体的な授業計画の検討を開始した2020年9月は、7月から8月にかけて全国的に感染者数が増加した（いわゆる第2波 [5]）ことにより、冬にかけての警戒が高まり始めた時期であった。2019年度に実施した本授業に関するアンケート調査の結果から、学生の履修動機が「宿泊を伴う共同生活の中でマリンスポーツに取り組むという授業形式」にあった [2] ことが示されていたため、2020年9月時点では例年通りの宿泊を伴う形式で開講する可能性を残しつつ、新たに宿泊を伴わない形式についても検討を開始した。

3. 宿泊を伴わない授業内容の検討

コロナ禍における新たな授業形式を検討する際には、(1) 従来の実習先にて日帰りで実習を行なう案、(2) 従来の実習先で人数を分散させて実施する案、(3) 近隣の施設を利用し宿泊を伴わずに実施する案について検討を進めた。そのうち、(1) 従来施設での日帰り案については、従来1往復分のバス代が生じていたが、日帰り案の場合には3～4往復分に増大することによって、履修者の金銭的負担が増大す

* 東海学園大学 スポーツ健康科学部

ることが懸念された。そのため、大学または学部との金銭的補助に関する交渉も視野に入れつつ保留とした。次に、(2) 従来施設で人数を分散させて実施する案については、(1) 同様にバス代が増大することに加えて、日程の確保が困難であったことを理由に却下した。日程の確保が困難になった背景には、2021年2月以降で感染者数が全国的に落ち着きを示したことから、実習先近隣の小中学校が総合学習として日帰りで施設を利用するケースが増加したことが挙げられる。そこで、2021年2月以降から本格的に(3) 近隣の施設で実施する案について施設の選定と調整を開始した。愛知県内および近隣の施設について検討を行ない、愛知県内では保田ヶ池カヌーポロ競技場（愛知県みよし市、みよし市カヌー協会が委託管理運営）およびリバーポートパーク美濃加茂（岐阜県美濃加茂市）の2施設を選定した。選定の際には、40名程度の履修生を受け入れるための施設（更衣室およびシャワーなど）、用具（カヌー、パドル、救命胴衣など）があること、密を避けて授業が実施できるスペースが確保されていることについて確認を行なった。

3.1. 保田ヶ池カヌーポロ競技場（愛知県みよし市）について

愛知県は全国的にもカヌー競技およびボート競技が盛んな地域であり、本学みよしキャンパス周辺には三好池カヌーセンターがある。三好池カヌーセンターは、フラットウォーターレーシング（静水の直線コースで着順を競い合うカヌー競技）のトレーニング場として活用されている。なお、三好カヌーセンターはみよし市が所有する施設であるが、みよし市カヌー協会が委託を受け管理運営を行っており、年間を通して小中学生を対象としたカヌー教室（普及事業）や高校生以上を対象とした練習会（強化事業）も実施されている [6]。2021年は三好池のカヌーコースの定期整備が行われており、三好池が利用できなかったため、三好池から3 km ほど離れた保田ヶ池カヌーポロ競技場で実習を受け入れていただくことになった。保田ヶ池カヌーポロ競技場は、2004年に世界カヌーポロ選手権大会を受け入れたこともある競技場であり、水面にはカヌーポロコートが4面設置されている。また、艇庫（用具を保管する建物）には、管理事務所、更衣室、シャワー室、会議室などがあり、密を避けて着替えや授業を行なっていくうえで十分なスペースが確保されていた。

3.2. リバーポートパーク美濃加茂（岐阜県美濃加茂市）

リバーポートパーク美濃加茂は、美濃加茂市と可児市の境に流れる木曾川の河川敷に設置された公園施設である。施設内には、ビジターハウスの他に芝生広場やBBQエリアなどもあり、総合型アウトドア施設として多くの市民に利用されている [7]。本実習では、リバーポートパーク美濃加茂が一般向けにも実施しているラフティング、Stand up paddle (SUP) および水辺活動における安全講習をベースとして、授業の目的や到達目標に合わせて、内容を調整した。実習施設には十分なスペースが確保されていたため、当初は履修者全員で2日間の通いにて8月に実習を行なう計画であった。しかし、2021年4月に東京都を対象に発出された緊急事態宣言が8月には本県を含む21都道府県に拡大され [8]、施設自体の利用が制限されてしまった。そのため、利用制限が解除された10月の土曜日および日曜日に6日間の日程を確保し、そこに履修者を分散させて各履修生が日帰りで参加した。

4. 授業内容の変更点

表1に従来の授業内容と2021年度に実施した授業内容を示した。2019年度は、3回の事前学習を行ない授業の目的、実習内容および実習費用に関する説明や、具体的な準備物および実習費用の入金方法などについて確認を行なった。その後、履修者全員で実習地にバスで移動し、第4回から第14回に相当する授業を現地で実施した。現地での実習では、15人編成で3班に分かれ、カヌー、ヨットおよび

ウィンドサーフィンを実施した。また、第15回目の授業では実習の振り返りと確認テストを実施した。2021年度は事前学習において、授業の概要の説明と併せてPCR検査を実施した。カヌー実習では、保田ヶ池カヌーポロ競技場に現地集合し、2日間にわたり安全講習、一人乗りカヌー、Eボート（10人乗りカヌー）およびカヌーポロを実施した（図1）。また、河川実習では、リバーポートパーク美濃加茂にて、安全講習、救助法、ラフティングおよびSUPを実施した（図2）。なお、上述したようにリバーポートパーク美濃加茂の利用が9月まで制限されていたため、河川実習は10月の土曜日と日曜日に6日間の日程を確保し、履修者はいずれかの実習日（1日間）にて参加させ（3～9名ずつ）、毎回の授業を担当教員が引率を行なった。そのため、当初予定していたキャリア講習は、後日（12月22日）にみよしキャンパスに講師を招き実施した。その際、事後指導として実習の振り返りと確認テストを実施した。したがって、2019年度と比較して、2021年度は宿泊を伴わない形式で実施したこと、現地集合としたこと、少人数に分散して実施したことが大きな変更点であった。

表1. 2019年度と2021年度の授業内容

回	2019年度		2021年度	
	区分	内容	区分	内容
1	ガイダンス	授業の目的、内容に関する説明	ガイダンス	授業の目的、内容に関する説明
2	事前学習①	保険加入、費用に関する説明	事前学習(対)	準備物の説明・PCR検査
3	事前学習②	服装など準備物の説明	カヌー実習①	アイスブレーキング 安全講習
4	本実習①	開校式および用具の準備	カヌー実習②	一人乗りカヌー Eボート
5	本実習②	カヌー、ヨット、ウィンドサーフィンに別れて	カヌー実習③	一人乗りカヌー Eボート
6	本実習③	実習	カヌー実習④	カヌーポロの基礎
7	本実習④	アイスブレーキング	カヌー実習⑤	カヌーポロの基礎
8	本実習⑤	カヌー、ヨット、ウィンドサーフィンに別れて	カヌー実習⑥	カヌーポロの試合
9	本実習⑥	実習	河川実習①	安全講習
10	本実習⑦		河川実習②	ラフティングボートの操作方法
11	本実習⑧	帆走理論に関する座学	河川実習③	ラフティング体験
12	本実習⑨	カヌー、ヨット、ウィンドサーフィンに別れて	河川実習④	救助法
13	本実習⑩	実習	河川実習⑤	SUP体験
14	本実習⑪	班対抗カヤックレース	河川実習⑥	キャリア講習
15	事後指導	実習の振り返りと確認テスト	事後指導(対)	実習の振り返りと確認テスト

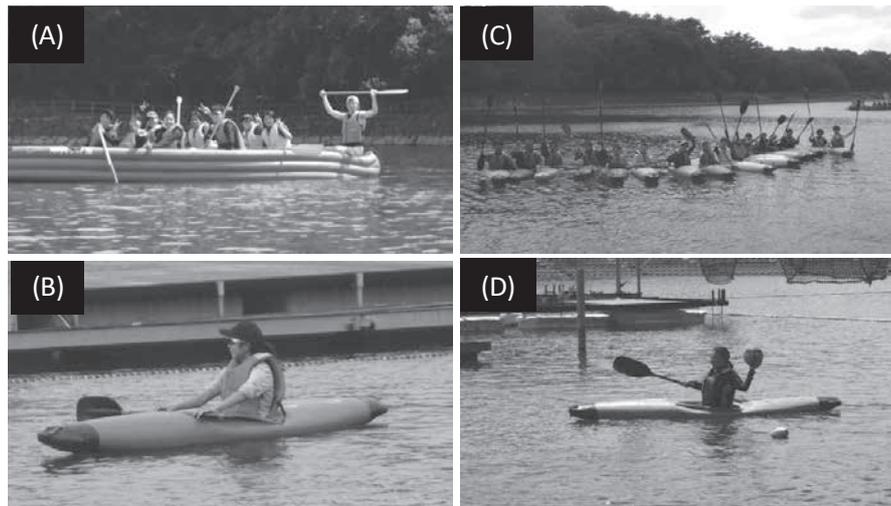


図1. カヌー実習の様子
カヌー実習では10人乗りボート (A)、一人乗りカヌー (BおよびC)、カヌーポロ (D) を実施した。

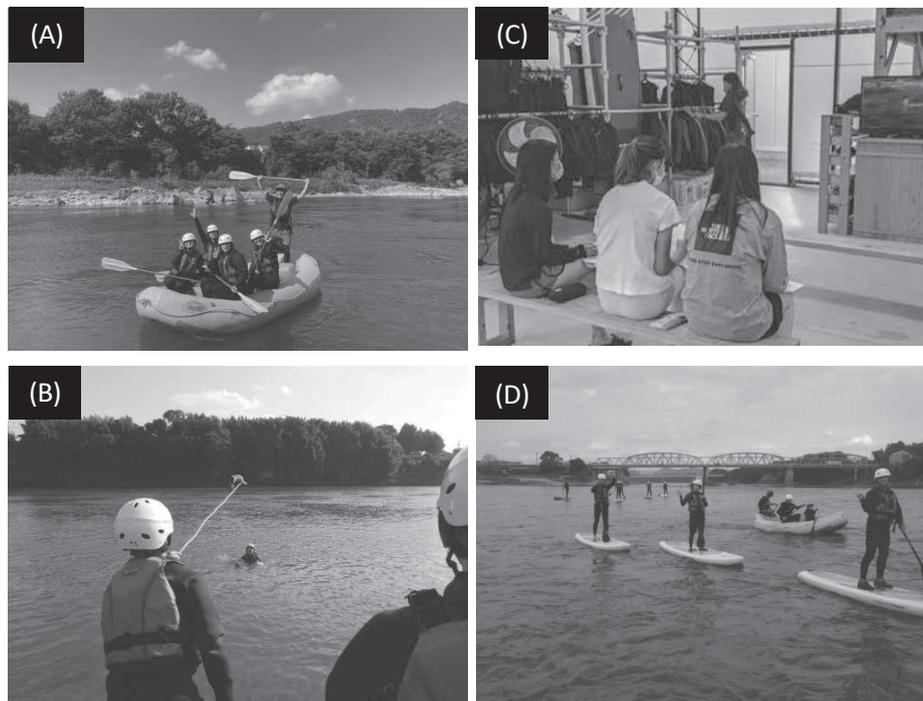


図2. 河川実習の様子
河川実習では、ラフティング (A)、水辺活動における救助法 (B)、水辺活動の危険性に関する座学 (C)、SUP (D) を実施した。

5. 感染症対策

2021年度授業ではコロナ対策などが必要になることが予想されたため、授業予算を立てる段階でPCR検査キットの購入費用を計上した。また、保田ヶ池カヌーポロ競技場を利用する際には、みよし市およびみよし市カヌー協会が定めた感染症対策を実施する必要があった。そのため、1) 事前のPCR検査の実施、2) 実習開始2週間前からの体温および体調チェック表の提出、3) 当日の体温チェックを実施した。表2に本実習で使用した体温および体調チェック表を示した。チェックシートの様式は、陸上競技連盟が定めた新型コロナウイルス感染症についての体調管理チェックシートを参考に作成した。

表 2. 本実習で使用した体温および体調チェックシート

東海学園大学 スポーツ実習（マリン実習） 実習開始前の体調・体温記録シート

症状について、該当しない場合には✓を入れ、該当する場合には○を記入すること（体温は 0.1℃単位の数値を記入）

No.		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
1	のどの痛みがある													
2	咳（せき）が出る													
3	痰（たん）が出たり、絡んだりする													
4	鼻水（はなみず）、鼻づまりがある（※）													
5	頭が痛い													
6	体のだるさなどがある													
7	発熱の症状がある													
8	息苦しさがある													
9	味覚異常（味がしない）													
10	嗅覚異常（匂いがしない）													
11	体温	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
12	薬剤の服用													

※アレルギーを除く

氏名: _____ 学籍番号: _____

履修者にはカヌー実習の2週間前から症状の有無、体温および薬剤の服用について記録をつけるよう依頼した。また、河川実習では上記に加えて、実習当日に簡易的な抗原検査キットを使用した検査を実施した。抗原検査については、1) PCR 検査は実習の5～7日前に実施するため実習当日までのタイムラグがあること、2) 公共交通機関や自家用車への乗り合わせが主な移動方法であったため、移動を開始する前にも検査を実施する必要があると考えられたことから履修者に抗原検査キットを配布し、当時の朝に実施するよう依頼した。また、実習終了後は、履修者の任意のタイミングで再度検査を行なうように、抗原検査キットをもう一つ余分に配布した。

6. 履修者からのフィードバック

ここまで述べてきたように2021年度の実習は、実施内容、現地への移動方法および感染症対策の実施という点で従来とは大きく異なるものであった。そこで、履修者の内省を調査するためにアンケート調査を実施した。アンケート調査は、Teamsの課題機能を使用してオンラインで実施した。授業報告へのデータ使用に関しては、アンケートへの回答をもって承諾とする旨の説明を行ない、アンケート協力の依頼を行なった。履修者35名に対して29名(82.9%)からの回答が得られた。

図3に実習の実施形態および感染症対策に関する質問への回答結果を示した。本年度は、昨年度に履修していた学生の履修を認めたため、2年生および3年生の複数学年が履修していたが、およそ半数の学生(17名、58.6%)が好意的に捉えていた。自由記述の回答には、「普段は関わるのが少ない他学年と交流でき楽しかった」などの意見がみられた。また、同学年のみが良かったと回答した者からは、「コロナ禍において同学年であっても交流する機会が少なかったため、同学年で交流がしたかった」という意見がみられた。PCR検査および抗原検査については、90%を超える履修生が「必要なものだった」または「やや必要なものだった」と回答していた。自由記述からは、「大人数の実習であること」や「授業中の距離が比較的近いこと」を根拠として、「安全や安心につながる」という回答が多数見受けられた。また、「実習先のスタッフの方が安心できるから」といった回答もみられた。一方で、河川実習に合わせて実施した抗原検査については、その必要性について懐疑的な回答も散見された。次に現地集合・現地解散については、70%を超える履修生が肯定的に捉えており、「密を避けるために必要だった」や

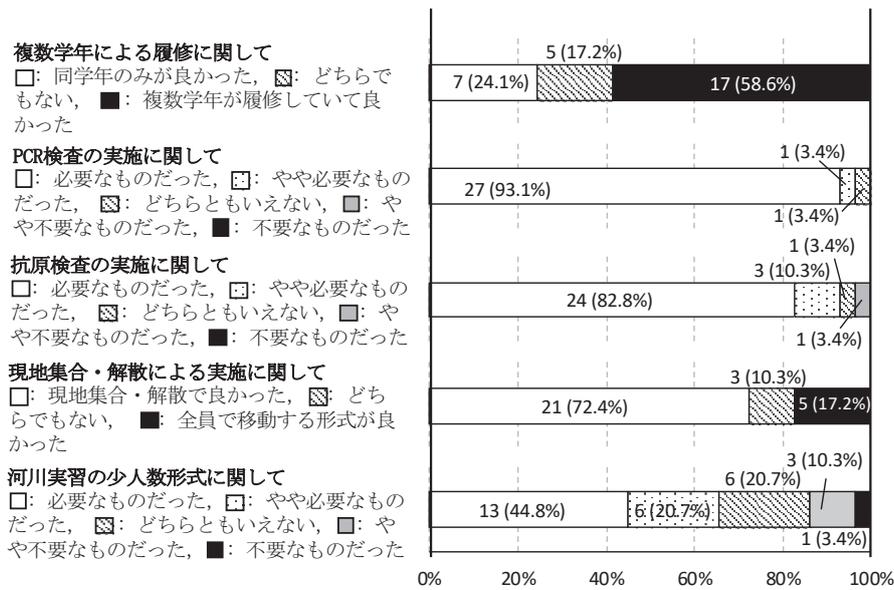


図3. 実施形態および感染症対策に関する質問への回答結果
授業の実施形態および感染症対策に関する質問に対する回答結果を示した。図中には人数と括弧内に割合を示した。

「大学から家が遠いため移動の時間が節約できた」などの回答が得られた。一方、全員での移動を希望した履修生からは「交通費が負担だった」や「電車の時間が早く大変だった」などの回答があった。最後に、河川実習における少人数形式については、60%を超える履修生が肯定的に捉えており、「着替えなどもスムーズに行えるため」や「(インストラクターの方の)説明が聞きやすかった」、「コミュニケーションも取りやすかった」などの回答が得られた。一方で、少人数形式に否定的だった履修生からは、「実習日が異なるため天候が悪かった日程の子がかわいそうだった」や「人数を増やして実習をしたかった」などの回答がみられた。

図4にカヌー実習および河川実習で実施した各プログラムに対する満足度調査の結果を示した。いずれのプログラムも90%を超える履修生が「満足した」または「やや満足した」と回答していた。カヌー実習に対する自由記述からは、一人乗りカヌーについて「体幹が大事だと感じた」など、その種目の難しさに関する記述がみられた。また、Eボートについては、「他の人とタイミングを合わせることが難しかったが、息があった時の進み方が気持ち良かった」などの記述がみられた。カヌーポロについては、全履修者が初めて体験するスポーツであったようで、その種目の新鮮さに関する記述が多く見受けられた。河川実習については、実施した種目の新鮮さに関する記述以外にも、「川では浅そうに見えてに見えて深いところが多々あり、これからは川で遊ぶときには必ずライフジャケットを着ようと思った」や「バランスも大事だが、それと同時に水の流れを考えるのが難しかった」のような安全確保や自然水域の特性に触れた記述も見受けられた。

図5に授業全体を通じた評価結果を示した。授業に対しては全ての履修生が「積極的に取り組めた」または「やや積極的に取り組めた」と回答していた。また、実習を通しての体力的な負担については、50%を超える履修生が「大きかった」または「やや大きかった」と回答していた。また精神的負担については、20%の履修生が「大きかった」または「やや大きかった」と回答していた。ウォータースポーツへの印象の変化については、50%を超える履修生が「変化があった」または「やや変化があった」と回答しており、自由記述では、「不安だったが面白さに気付けた」や「楽しいだけではなく、危険と隣り合わせであることを知れた」など、ウォータースポーツの面白さに加えて、水辺活動に伴う危険性に関する記述がみられた。最後に感染症対策に関する意識の変化については、およそ50%の履修生が「どちらでもない」と回答しており、次いで「やや変わらなかった」および「変わらなかった」、「変わっ

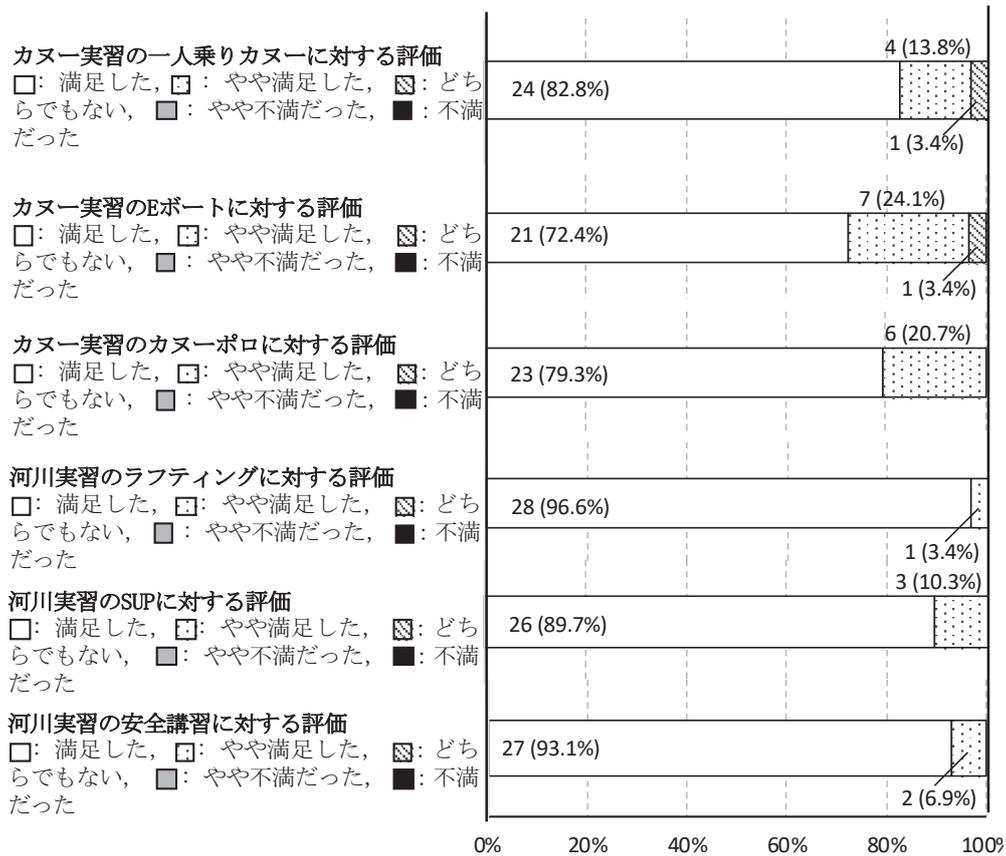


図 4. 各プログラムに対する満足度調査の結果

カヌー実習および河川実習で実施した各プログラムに対する満足度調査の結果を示した。図中には人数と括弧内にその割合を示した。

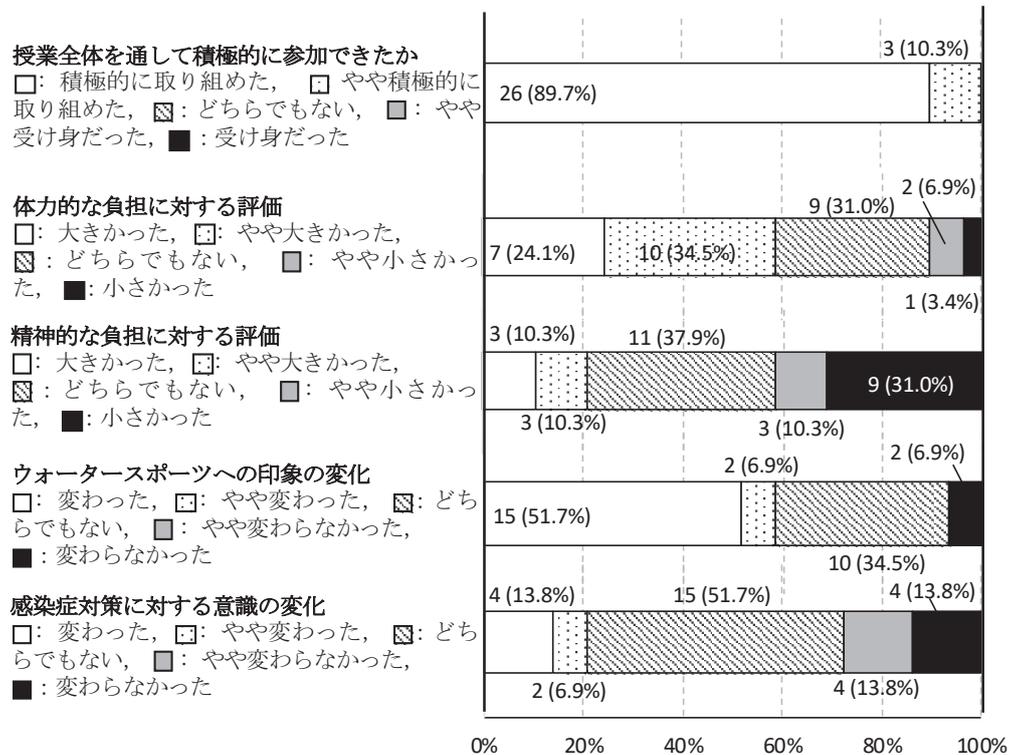


図 5. 授業全体を通じた評価

カヌー実習および河川実習で実施した各プログラムに対する満足度調査の結果を示した。図中には人数と括弧内にその割合を示した。

た」、「やや変わった」の順であった。

フィードバック結果から、本授業で講じた感染症対策は総じて肯定的に捉えられていたと考えられる。また、感染症対策に対する意識について、本授業を通して変化があったという履修者が20%程度であったことを考えると、もともと各履修者の感染症対策に対する意識づけが高かったことが推察される。特に2021年度は東京オリンピックが開催され、オリンピックそのものに加えて感染症状況や感染対策などの報道もされていたことが影響していたかもしれない。また、授業内容については、いずれも満足度の高い内容であったようである。全体を通した自由記述からは、初めて取り組む種目に対する不安や、そこから楽しさを見出した様子が見受けられた。また、本授業では、人工的に管理された環境を導入とし、自然水域での実習に発展させた。全体を通した自由記述では、水辺活動の危険性に言及したのもあったことから、ウォータースポーツの魅力と合わせて水辺活動の危険性についても見識を深めることができたようである。

7. コロナ禍における実習実施のための課題

コロナ禍において実習を安全に行なうためには、感染状況などを踏まえて授業内容の調整や必要な感染症対策を講じることが重要であることを痛感した。また、どのような感染症対策が必要か、どのような授業内容であれば実施できるかの判断には、その授業の担当教員に加えて、教員間や大学組織内での議論が重要であると感じた。本年度は、実習方法を検討している段階で、方針が修正される度に教務課担当者との情報共有を行ない、そこから教務委員会などに報告し実施の判断を仰いだ。また、本実習のPCR検査や抗原検査の実施においては、本学みよしキャンパス保健室および助手室の先生方にご協力をいただいた。特に、履修者を密集させないために複数の日程を確保していただいたため、その期間の対応でご負担をおかけした。そのため、ある程度の時間を指定して検査を実施することや、郵送などによる検査キットの配布なども検討していく必要があった。また、本学ではマリンスポーツ以外にも学外で実施する授業が多くあるが、それらの実施にあたり講じるべき対策についての共通認識を持つことも必要であると感じた。現時点では、学外実習に対するガイドラインのようなものはなく、その時々的情勢を踏まえ担当教員が様々な調整を行なう状況である。今後は、ガイドラインの作成を含め、教員間および大学組織内で情報を共有・議論できる体制の構築が求められると考えられる。

引用文献

- [1] 丹野健一郎, “コロナ禍におけるオンライン授業の実践について,” *第一工業大学研究報告*, 第 33 巻, pp. 139-144, 2021.
- [2] 白井祐介・赤澤祐美・木村華織, “マリンスポーツ実習における授業報告および教育効果に関する検討,” *東海学園大学教育研究紀要*, 第 5 号, pp. 71-78, 2019.
- [3] 内閣官房, “新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言,” 7 4 2020. [オンライン]. Available: https://corona.go.jp/news/pdf/kinkyujitai_sengen_0407.pdf. [アクセス日: 10 12 2021].
- [4] 内閣官房, “新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の区域変更,” 16 4 2020. [オンライン]. Available: https://corona.go.jp/news/pdf/kinkyujitaisengen_gaiyou0416.pdf. [アクセス日: 10 12 2021].
- [5] 朝日新聞 DIGITAL, “コロナ第2波 東京 100days,” 1 10 2020. [オンライン], Available: <https://www.asahi.com/special/coronavirus/tokyo-100days-2nd/>. [アクセス日: 10 12 2021].
- [6] みよし市カヌー協会, “みよし市カヌー協会だより,” 1 10 2021. [オンライン]. Available:

https://7065e27a-1e8e-461b-b369-9bcca87776e3.filesusr.com/ugd/ddb3c7_e7da5a9d04474a968ece8c92f8dd9204.pdf. [アクセス日：10 12 2021].

- [7] リバーポートパーク美濃加茂, “公園施設案内,” [オンライン]. Available: <https://rppm.jp/facilities/>. [アクセス日：10 12 2021].
- [8] 内閣官房, “新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の区域変更,” 25 8 2021. [オンライン]. Available: https://corona.go.jp/news/pdf/kinkyujitaisengen_houkoku_20210825.pdf. [アクセス日：10 12 2021].